



HyperFlex アップグレードのトラブルシューティング

- [HXDP リリース 5.5\(1a\) M4 サーバー上のアップグレードエラー \(1 ページ\)](#)
- [VMs はアップグレードしている時は移行しません \(2 ページ\)](#)
- [ロックダウン モードの ESXi ホストまたは HyperFlex コントローラ \(3 ページ\)](#)
- [アップグレード中に HX Connect への接続が失われる \(3 ページ\)](#)
- [HyperFlex VIB のアップグレードに失敗しました \(4 ページ\)](#)
- [HX Connect UCS サーバファームウェア 選択ドロップダウンにファームウェアバージョン 4.1 以降がリストされていない \(5 ページ\)](#)
- [クラスタ ノードをメンテナンス モードにする手順でアップグレードが失敗しました \(5 ページ\)](#)
- [vGPU が設定された VM を含むクラスタのメンテナンス モードが自動にならない \(6 ページ\)](#)

HXDP リリース 5.5(1a) M4 サーバー上のアップグレードエラー

説明

Cisco HyperFlex リリース 5.5(1a) 以降、M4 サーバーはサポートされていません。M4 以前の HX 世代のサーバーを含むクラスタを HXDP リリース 5.5(1a) 以降にアップグレードしようとすると、アップグレード前のフェーズで失敗します。

アップグレード ページとアクティビティ ページに、[**ブートストラップ アップグレード (Bootstrap Upgrade)**] 手順でエラーが表示されます。場合によっては、ユーザーはエラーメッセージを表示できず、実際にはアップグレードが失敗したにもかかわらず、アップグレードが成功したと表示されます。

フォールバック メカニズムでは、**ClusterUpgradeFailed** イベントと、試行されたアップグレードが許可されないことを示すバナーが表示されます。

症状

アラートが生成され、HXDP 5.5(1a) 以降でサポートされていないクラスタで 1 つ以上の M4 プラットフォーム ノードが検出されたことを示すバナーが表示されます。グレースフルノード削除手順に従ってこれらのノードをクラスタから削除するか、TAC と協力してこれらのノードから移行し、アップグレードを再試行してください。



(注) メッセージセンターには、同じエラー メッセージが入力されます。

アクション (Action)

アップサポートされているノードをグレースフルに削除し、アップグレードを再試行するか、TAC に連絡してサポートを受けてください。

VMs はアップグレードしている時は移行しません

説明

ESXi クラスタのアップグレードは、「ノードのメンテナンス モードが失敗しました」というエラーで失敗します。これは、DRS と HA が有効になっているオンラインで正常な ESXi クラスタで発生します。

アクション (Action)

次の回避策を次の順序で試してください。

1. HA アドミッションコントロールポリシーが有効で、スロットポリシーに設定されている場合は、クラスタ 技術情報の割合に変更して 1 つのホストの障害を許容してから、アップグレードを再試行します。
2. HA アドミッションコントロールポリシーを無効にするか、HA を無効にしてから、アップグレードを再試行します。
3. いくつかの VM を追加して、少なくとも 1 つのノードの障害を許容できる十分なフェイルオーバーキャパシティがクラスタにあることを確認してから、アップグレードを再試行します。

ロックダウン モードの ESXi ホストまたは HyperFlex コントローラ

説明

ESXi ホストがロックダウン モードの場合は、アップグレード前の検証が失敗し、エラーメッセージ `[auth cancel]` が表示されます。

アクション (Action)

ESXiホストでロックダウンモードを有効化/無効化にし、アップグレードが成功したら有効にします。

HyperFlex コントローラ VM の使用

1. HX Connect にログインします。
2. 左側の [Navigation] ペインで、[System Overview] を選択します。
3. システムの概要] タブで、アクションドロップダウンリストからの有効化またはコントローラ VM へのアクセスを無効にする管理者として、SSH を使用します。

ESXi ホストの使用

1. vSphere Web クライアントにログインします。
2. VSphere Web Client のインベントリでホストを特定します。
3. [Manage] タブをクリックし、[Settings] をクリックします。
4. [System] で、[Security profile] を選択します。
5. [Lockdown Mode] パネルで、[Edit] をクリックします。
6. [ロックダウンモード (Lockdown Mode)] をクリックし、モードを[無効]に設定します。

アップグレード中に HX Connect への接続が失われる

説明

HX 3.5 (2g) から HX 4.0 (2a) へのアップグレード前の手順の後、HX 接続への接続が失われました。アップグレード中に、アップグレードのソースバージョンに期限切れの証明書がある場合、ブラウザはアップグレード前の手順を実行した後にユーザーをログアウトします。サーバーの証明書が事前アップグレード後に変更されたため、これは承認された安全な動作を承認します。

アクション (Action)

ブラウザを更新し、再度ログインします。

HyperFlex VIB のアップグレードに失敗しました

説明

HX 4.5 (1a) 以上への HXDP アップグレードのエラー：「*HyperFlex VIB* のアップグレードに失敗しました。理由：いくつかの (システム エラー)。」

次のエラー ログが ESXi esxupdate.log ファイルに表示されます。

```
2020-12-01T11:59:22Z esxupdate: 333049: root: ERROR:
vmware.esximage.Errors.LiveInstallationError: ([], '([], "Error in running rm
/tardisks/scvmclie.v00:\nReturn code: 1\nOutput: rm: can\'t remove
\'/tardisks/scvmclie.v00\': Device or resource busy\n\nIt is not safe to continue. 完
了していないアップデートを破棄するには、ホストをただちに再起動してください。 」
```

アクション (Action)

次の手順に従って、getstctlvmlogs に対応するプロセスを強制終了し、アップグレードを再試行します。

1. root ログインで ESXi に SSH 接続します。
2. コマンド `ps -c | grep -e cisco -e springpath` を実行し、プロセス ID (PID) をメモします。次に例を示します。

```
ps -c | grep -e cisco -e springpath
112056 112056 sh /bin/sh /opt/springpath/support/getstctlvmlogs
```

3. コマンド `kill -9<PID from previous command>` を使用してプロセスを強制終了します。次に例を示します。

```
kill -9 112056
```

4. HX Connect または Intersight に戻り、アップグレードを再試行します。問題がまだ続く場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

HX Connect UCS サーバファームウェア 選択ドロップダウンにファームウェアバージョン 4.1 以降がリストされていない

説明

HX Connect UI から複合アップグレードを実行しようとする、UCS サーバファームウェアを選択するドロップダウンにバージョン 4.1 以降が表示されません。

アクション

UCS Manager にログインし、ファブリック インターコネクต์に UCS B および C ファームウェアバンドルをアップロードしたことを確認します。そうでない場合は、それらをアップロードし、アップグレードを再実行します。UCS B および C ファームウェアバンドルがファブリック インターコネクต์にすでにアップロードされている場合は、以下の回避策を適用してアップグレードを続行します。

1. [アップグレードタイプの選択 (Select Upgrade Type)] ページで、[HX データ プラットフォーム (HX Data Platform)] のみを選択します。
2. アップグレードに適した HXDP アップグレード パッケージを参照して選択します。¹
3. vCenter ログイン情報を入力します。
4. [アップグレード (Upgrade)] をクリックします。これにより、管理コンポーネントがブートストラップされます。UI 画面を更新します。
5. UI が更新されたら、複合アップグレード手順を試してください。これで、UCS サーバファームウェアバージョン 4.1 以降がドロップダウンメニューに表示されます。

クラスタノードをメンテナンスモードにする手順でアップグレードが失敗しました

説明

クラスタノードをメンテナンスモードにする手順の失敗は、vSwitch とポートグループでの MTU の不一致が原因で発生します。ノード拡張方式を使用して後で追加されたノードがクラスタにある場合、新しく追加されたノードの MTU は 9000 に設定され、他のノードは MTU 1500 に設定されます。

¹ [バージョンは HXDP 4.5 以降である必要があります。 (The version must be HXDP 4.5 or later.)]



- (注) 以下の修復は、クラスタにクラスタ拡張の一部として追加された1つ以上のノードがあり、元のクラスタノードが 1500 の MTU に設定されている間に MTU が 9000 に設定されている場合にのみ適用されます。これがシナリオではない場合は、TAC にお問い合わせください。

アクション

- vCenter にログインします。
- すべてのノードで設定されている MTU 値を確認します。
- 最初に構築されたクラスタの一部であったノードの MTU が 1500 に設定されており、他の一部のノード（クラスタ拡張の一部として後で追加されたノード）の MTU が 9000 に設定されている場合は、そのようなすべてのノードの MTU を 1500 に変更します。
- アップグレードを再実行します。

vGPU が設定された VM を含むクラスタのメンテナンスモードが自動にならない

説明

vGPU が設定された VM を含むクラスタの場合、DRS が完全に有効になっていても、メンテナンスモードは自動的に開始しません。ローリングアップグレード時には、これらの VM を手動で処理して、各 ESXi ホストがメンテナンスモードに入り、適切なタイミングでアップグレードを続行できるようにする必要があります。

アクション

次のいずれかの方法を使用して続行します。

1. vGPU が設定された VM について、クラスタ内の別の ESXi ホストに、手動で vMotion の操作を行います。
2. vGPU が設定された VM の電源を一時的にオフにします。ESXi ホストが再起動し、クラスタに再参加したら、再度電源をオンにすることができます。



- (注) これは DRS ホストの退避に関する制限で、ドキュメント化されています。VMware ドキュメントサイト上の「DRS が vGPU 対応の VM を自動的に移行しない (66813) トピック」を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。